

- 19 傳は送る 蹄の傷める馬
20 江は迎ふ 尾の損する船
21 郵亭 五十に余れり
22 程里 三千に半なり
23 駕を税す 南樓の下
24 車を停む 右郭の邊

口語訳

- 17 (追放されて行く道中の) 街道は風に砂塵が舞って、雲が立ち込めたように四方は煙っていた。
18 (追放されて行く道々の) 野原には (春光を浴びて) 草があたり一面に生い繁っていた。
19 (道中の) 駅舎では新たにアてがわれる馬とてなく、(今まで乗り続けてきた) 蹄を傷め疲れ果てた馬を見送るしかなかった。
20 (道中の) 港では船尾がこわれかかった船が (私たちを) 迎えるのみであった。
21 太宰府までの宿駅は五十余り (泊りを重ね)
22 太宰府までの行程は千五百里であった。
23 (やっと着いた) 太宰府南樓のもとで、(今までの行程を伴にした) 疲馬を解放し
24 (私のこれからの住み家となる官舎のある) 右郭のほとり下車した。